

論文番号	(第 18 回研究会 2019.7.13 於青山学院大学)
タイトル	複合動詞「～アゲル」の史的変遷—〈完遂〉用法の獲得に着目して—
著者名 (所属)	池田來未 (お茶の水女子大学)
連絡先 E メール	g1970101@edu.cc.ocha.ac.jp
論文内容	<p>(背景および研究目的)</p> <p>「アゲル」を後項にとる複合動詞 (以下, 「～アゲル」) は現代語において, 「持ちあげる」「取りあげる」など〈上昇〉を表す用法が存在する一方で, 「書きあげる」「焼きあげる」など動作の〈完遂〉を表す複合動詞としても用いられる。本発表では「～アゲル」が動作の〈完遂〉を表す用法を獲得した過程・要因を歴史的に明らかにする。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>国立国語研究所の『日本語歴史コーパス』(国立国語研究所 (2019) 『日本語歴史コーパス』https://chunagon.ninjal.ac.jp/(2019年5月16日確認)等を用いて, 上代から近代にかけての「～アゲル」の用例を採集する。さらに, 姫野 (2018) をもとに用例を意味的に分類し, 各用法の使用時期や用法間の派生関係について調査・検討する。また, 本動詞「アゲル」とも比較しつつ「～アゲル」が〈完遂〉用法を獲得した要因を明らかにする。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>調査の結果, 〈上昇〉を表す「～アゲル」は上代から存在するが, 〈完遂〉を表す用例は近世からみられることが分かった。〈上昇〉と〈完遂〉の関係については, 先行研究の王 (2014) のように, 空間的な上への移動が時間に派生し, 〈完遂〉用法が成立したと捉える向きもある。</p> <p>ただ今回の歴史的調査により, 「巻きあげる」など後項「アゲル」の語彙的意味を多く残した〈上昇〉は初期からみられるものの, 「すすぎあげる」など〈完遂〉を表す「～アゲル」の出現は近世であり, 時代的な隔たりが大きいことが分かった。また, 本動詞「アゲル」は中古末に動作の〈完遂〉を表すようになる (『日本国語大辞典 第二版』第 1 巻)。よって, 複合動詞間で直接〈上昇〉から〈完遂〉が派生したのではなく, 中古末に出現した本動詞「アゲル」の〈完遂〉用法が影響し, 複合動詞「～アゲル」は前項の動作の〈完遂〉を表す用法を獲得したと考える。</p> <p>(結論)</p> <p>上代から近代の資料を用いて調査した結果, 本動詞「アゲル」が〈完遂〉を表すようになったことが影響し, 複合動詞「～アゲル」は動作の〈完遂〉を表す用法を獲得したと考えられる。</p>
参考文献	<p>王秀英 (2014) 「上昇を表す複合動詞の日中対照研究—『～上げる』と『～上(shang)』を対象として—」『文化』第 77 巻第 3・4 号, 東北大学文学会, pp.53-73 (左開き)</p> <p>日本国語大辞典 第二版 編集委員会・小学館国語辞典編集部編 (2000) 『日本国語大辞典 第二版』第 1 巻, 小学館</p> <p>姫野昌子 (2018) 『新版 複合動詞の構造と意味用法』研究社</p>